様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：８４６０３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ１３５４４

研究課題名（和文）密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on protecting country rituals by Buddhism based on esoteric Buddhism sacred texts

研究代表者
斎木　涼子（Saiki, Ryoko）

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・室長

研究者番号：９０５３０６３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：　平安時代以降、重要な護国修法として特別視されてきた太元帥法について、請来以降の性格の変化、担い手である法琳寺・真言宗内部の伝授の複数の画期、また政治社会との連動などについて明らかにした。また、院政期の真言密教重視政策の一例として言及される四灌頂について、その前史となる円宗寺結縁灌頂の存在と変遷を指摘し、院の恣意的な政策の一端を明らかにした。さらに、派生した研究テーマとして、真言僧によって編纂された真言密教の歴史書を分析し、その内容やそれらが編纂された時代的背景について指摘することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　歴史的に重要な意義を持つ国家的修法を研究する上で、聖教を歴史史料として活用することができた。聖教は、仏教の教義や儀礼に関わる特殊な文献資料であり、その内容も難解に思われるため、一般的な古文書や記録史料を用いる歴史研究者からは、敬遠される傾向にある。
　古代・中世前期の日本史研究については、文献史料がほぼ発見・研究し尽くされた感があり、まとまった新史料が登場することは希有な事例となっている。しかし、本研究を通じて、聖教には仏教学・宗派史学という分野以外に、通史的仏教史、政治史的観点からも活用の可能性があることを広く示すことができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：Since the Heian period, the Rite of Atavaka (Taigenho) has been regarded as an important method of protecting the country, and its character has changed since its inception, the multiple epochs in its transmission within Horinji Temple and the Shingon sect, and its linkage with political society. etc. were clarified. In addition, regarding Shikanjo (Four Esoteric Buddhism initiation ritual recognized by the state), which is mentioned as an example of the policy of emphasizing Shingon esoteric Buddhism during the Insei (Politics by the retired emperor) period, I pointed out the existence of Enshu-ji temple Kechien Kanjo(Esoteric Buddhism initiation ritual), which is a pre-history of Shikanjo, and clarified part of the arbitrary policy of the Insei. Furthermore, as a derived research theme, I was able to analyze the history books of Shingon Esoteric Buddhism compiled by Shingon monks, and was able to point out their contents and the historical background in which they were compiled.

研究分野：日本古代史・仏教史

キーワード：日本古代史　平安時代　聖教　真言宗　密教

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

日本の古代・中世において、仏教は政治・社会と密接な関係を持っており、特に国や権力者を護る役割が強く期待されていた。そのため、国家平安・五穀豊穣・疫病消除・天変地異や兵乱の沈静などを目的とした護国法会が執り行われた。

仏教史や仏教儀礼に関する研究は長い蓄積を持ち、また膨大な儀礼研究の蓄積により、個別の神事・仏事については、成立経緯やその具体的運営内容等、儀礼の構造が解明されている。こういった研究の多くは、『日本書紀』『扶桑略記』などの編纂史書、『御堂関白記』に代表される古記録、『西宮記』などの儀式書を主な史料として用いてきた。古代・中世研究において新たな史料群が発見される可能性は低く、こうした書物が今後も主要な研究素材となるであろう。しかし、未だ十分な活用がなされていない史料群がある。寺院によって保存されてきた、聖教である。

聖教とは、仏教教義の研究書や、法会や密教修法・加持祈祷などの儀礼の内容や方法、法会の記録など、僧侶によって著述・編纂された書物・記録類の一群を指している。近年、寺院史料調査の進展により、各地の寺院が所蔵する聖教の実態が把握され、その成果の一部は目録や出版物、データベース等において公開されつつある（『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究』）阿部泰郎・山崎誠編、勉誠出版、1998 など）。

聖教のテキストとしての側面については、主に仏教学や仏教史などの分野において、教学形成やその発展に関わる問題が研究されてきた。歴史研究では、寺院史の分野において、聖教の制作（誰がどこで著述したか）や、所有・伝承の経緯（誰から誰へ伝えられたか）といった情報が、寺院内部の人間関係や宗派の歴史的展開を知る史料となってきた。

しかし、聖教の歴史史料としての活用は始まったばかりであり、目録の公開や文献紹介、部分的な資料研究にとどまり、歴史史料として十分に活用がなされたとは言えないのが現状である。例えば、平安時代以降、朝廷にとっての重要行事となった護国修法、後七日御修法・太元帥法や、作物生産や民衆統治に直結する祈雨修法、請雨経法などは、聖教を活用することによって、さらにその実態が明らかになり、また政治史的な意義を論じることが可能となる。そこで申請者は、聖教のなかで国家的な密教修法に関する史料を調査し、新たな史料として紹介・検証したいと考え、本研究を申請した。

２．研究の目的

本研究の目的の１つは、歴史的に重要な意義を持つ仏教の儀礼、護国修法を研究する上で、寺院に伝えられた聖教を、歴史史料として最大限活用することである。

聖教は、仏教の教義や儀礼に関わる特殊な文献資料であり、その内容も難解に思われるため、一般的な古文書や記録史料を用いる歴史研究者からは、敬遠される傾向にある。しかし申請者は、自身の研究テーマを追う中で、多様な聖教の解読に取り組み、その調査方法や史料としての活用方法を取得してきた。そこでこの経験をもとに、さらに多くの聖教を調査検討することで、現在知られていない史料や、歴史情報を見出すことを目指している。同時に、この研究を通じて、聖教の歴史史料としての有用性や、活用方法を広く喧伝することが出来ると考えている。

２つ目の目的は、こうした聖教を仏教学・仏教史といった分野だけでなく、政治史的視点などからも分析し、王権論などに幅広く活用しようという着眼点である。特に、古代～中世前期の日本史研究については、文献史料が発見・研究し尽くされた感があり、まとまった新史料が登場することは希有な事例となっている。

真言密教を中心とした寺院聖教の調査・報告は進められているものの、その成果については、目録の公開や文献紹介、部分的な資料研究にとどまり、特に歴史史料として十分に活用がなされたとは言えないのが現状である。よって、申請者の調査成果を発表し、また研究を報告することで、聖教の活用方法や、新たな文献史料としての有用性を他の研究者にも広く提供することが出来ると考えている。

３．研究の方法

寺院聖教は各地に存在するが、本申請の研究では、真言密教寺院のうち、醍醐寺・称名寺・仁和寺という聖教を数多く所蔵する寺院と、博物館・図書館などの公的機関が所蔵する聖教に的を絞り、調査研究を行う。

その際、過去の調査の成果である目録・データベース類を十分に活用し、寺院の文化財担当者や、聖教の取り扱いに通じた他機関研究者の協力や助言を仰ぎながら、重要な聖教を重点的に調査した。

続いて、選出した聖教の内容を解読・検討し、歴史史料として有用と思われる物は翻刻等を行い、またそれらをもとにした研究を進め発表した。

## ４．研究成果

平安時代以降、重要な護国修法として特別視されてきた太元帥法について、請来以降の性格の変化があった点、担い手である法琳寺・真言宗内部の伝授について 11 世紀に大きな画期があった点、また院政期における政治社会との関係などについて明らかにした。

また、院政期の真言密教重視政策の一例として言及される四灌頂について、その前史となる円宗寺結縁灌頂の存在を指摘し、その成立から消滅をたどることで、この時期の院の恣意的な政策と仏教界の動向の一端を明らかにした。

さらに、聖教を調査するなかで派生した新たな研究テーマとして、真言僧によって編纂された真言密教の歴史書の重要性に気付き、その叙述内容を分析し、それらが編纂された動機や時代的背景について指摘することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>斎木 涼子 | ４．巻<br>121 |
| ２．論文標題<br>〈展示品のみどころ〉日本霊異記 上巻（興福寺） | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>奈良国立博物館だより | ６．最初と最後の頁<br>[8]～[8] |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24737/00000803 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>斎木 涼子 | ４．巻<br>24 |
| ２．論文標題<br>[論文] 『灌頂御願記』と『真言付法纂要抄』―真言宗における歴史書成立の背景― | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>奈良国立博物館研究紀要 : 鹿園雑集 = Bulletin of the Nara National Museum: Rokuon Zassh? | ６．最初と最後の頁<br>1～15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24737/00000789 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>斎木涼子 | ４．巻<br>22 |
| ２．論文標題<br>太元帥法の伝授 ―十一・十二世紀の転換― | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>奈良国立博物館研究紀要　鹿園雑集 | ６．最初と最後の頁<br>1－17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24737/00000728 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>斎木涼子 | ４．巻<br>116 |
| ２．論文標題<br>〈表紙解説〉華厳経（二月堂焼経） | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>奈良国立博物館だより | ６．最初と最後の頁<br>6－6 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>斎木涼子 | 4．巻<br>110 |
| 2．論文標題<br>〈展示品のみどころ〉国宝　賢愚経　巻第十五（大聖武）　奈良　東大寺 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>奈良国立博物館だより | 6．最初と最後の頁<br>8 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>斎木涼子 | 4．巻<br>112 |
| 2．論文標題<br>〈展示品のみどころ〉重要文化財　両堂記　第六（二月堂練行衆日記）　奈良・東大寺 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>奈良国立博物館だより | 6．最初と最後の頁<br>8 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>斎木涼子 |
| 2．発表標題<br>『灌頂御願記』と『真言付法纂要抄』―真言僧の仏教史観と天皇―― |
| 3．学会等名<br>日本史研究会　古代史部会　大会共同研究報告援助報告会 |
| 4．発表年<br>2021年 |

〔図書〕　計16件

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岩城　卓二、上島　享、河西　秀哉、塩出　浩之、谷川　穣、告井　幸男ほか | 4．発行年<br>2022年 |
| 2．出版社<br>ミネルヴァ書房 | 5．総ページ数<br>388 |
| 3．書名<br>論点・日本史学 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHKエンタープライズ近畿 | ５．総ページ数<br>224 |
| ３．書名<br>大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り― | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館、読売新聞社、NHK奈良放送局 | ５．総ページ数<br>212 |
| ３．書名<br>中将姫と當麻曼荼羅 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館 | ５．総ページ数<br>148 |
| ３．書名<br>第七十四回　正倉院展 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿 | ５．総ページ数<br>164 |
| ３．書名<br>春日大社若宮国宝展　―祈りの王朝文化― | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>奈良国立博物館 | 4．発行年<br>2020年 |
| 2．出版社<br>奈良国立博物館 | 5．総ページ数<br>144 |
| 3．書名<br>正倉院展　令和2年（第72回） | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>奈良国立博物館 | 4．発行年<br>2020年 |
| 2．出版社<br>奈良国立博物館 | 5．総ページ数<br>80 |
| 3．書名<br>おん祭と春日信仰の美術―特集 神鹿の造形― | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>奈良国立博物館 | 4．発行年<br>2019年 |
| 2．出版社<br>奈良国立博物館 | 5．総ページ数<br>286 |
| 3．書名<br>国宝の殿堂　藤田美術館展 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>奈良国立博物館 | 4．発行年<br>2019年 |
| 2．出版社<br>奈良国立博物館 | 5．総ページ数<br>154 |
| 3．書名<br>わくわくびじゅつぎゃらりー　いのりの世界のどうぶつえん | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館 | ５．総ページ数<br>144 |
| ３．書名<br>第七十一回　正倉院展 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館 | ５．総ページ数<br>80 |
| ３．書名<br>おん祭と春日信仰の美術 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館 | ５．総ページ数<br>72 |
| ３．書名<br>お水取り | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良中世日記研究会 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>八木書店出版部 | ５．総ページ数<br>330 |
| ３．書名<br>平戸記1 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>斎木涼子 | ４．発行年<br>2024年 |
| ２．出版社<br>塙書房 | ５．総ページ数<br>368 |
| ３．書名<br>平安時代の宗教儀礼と天皇 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2024年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館・ＮＨＫ奈良放送局・ＮＨＫエンタープライズ近畿・読売新聞社 | ５．総ページ数<br>300 |
| ３．書名<br>空海 ＫＵＫＡＩ ―密教のルーツとマンダラ世界（特別展図録） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>奈良国立博物館 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>奈良国立博物館・日本経済新聞社・テレビ大阪 | ５．総ページ数<br>286 |
| ３．書名<br>聖地　南山城（特別展図録） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|